



# かながわ 童謡・唱歌物語

—歌の歴史再発見—

監修・文 池田小百合

写真 桜井ただひさ

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成23年6月発行

●

発行人 小川 是

●

編集人 富安良和

●

発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団

●

〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3丁目1-1

□

045-259-2171(直通)

●

株西北社 大日本印刷株



か

な

が

わ

童

謡

・

唱

歌

物

語

【歌の歴史再発見】

監修・文 池田小百合

私たちが住む神奈川では童謡・唱歌の名曲がたくさん生まれ、歌い継がれてきました。

そのひとつひとつに歴史があり、ドラマがあります。

今回紹介するのは十六のドラマです。あなたは、いくつ知っていますか。

## 歌の町 三浦市

勝承夫・作詞 小村三千三・作曲

よい子が住んでる よい町は  
楽しい楽しい 歌の町



上／「歌の町」歌碑 三浦市白石町の歌舞島児童公園（写真 提供／三浦市観光協会）。右／「歌の町」レコード VICTOR 40036（歌）佐々川浩子、日本ピクター兒童合唱團。

## 赤い靴 横浜市

野口雨情・作詞 本居長世・作曲

赤い靴 はいた 女の子  
異人さんに つれられて 行っちゃった

作曲者の小村三千三は、明治三十二年（一八九九）九月十八日に神奈川県三浦郡三崎町で誕生（現在の三浦市三崎）。東京音楽学校（現在の東京芸術大学）器楽科を卒業して作曲家になりました。勝承夫は、文部省の音楽教科書の編集に加わった詩人。「神奈川県民歌・光あらたに」（村瀬輝光作詞、飯田信夫作曲）の補作をしています。

野口雨情作詞、本居長世作曲の「赤い靴」は、歌詞に「横浜の埠頭から」と横浜が登場する名曲で、横浜の山下公園には赤い靴の少女像が建てられ、赤い靴にまつわるお土産品ができるほどです。

詩は雑誌『小学女生』（実業之日本社）大正十年（一九二一）十二月号に発表され、大正十一年八月、本居長世が作曲、長世の次女・貴美子がステージで歌つて流行させました。

四番は現在「赤い靴見るたび 考える 異人さんに逢うたび 考える」と歌われていますが、雨情の自筆原稿では「赤い靴見るたび 思ひ出す 異人さん見るたび 思ひ出す」となっています。



雑誌「赤い鳥」創刊号（赤い鳥社）大正7年7月1日発行。

表紙／伊豆箱根鉄道大雄山線・大雄山駅前の「金太郎像」。裏表紙／横浜・山下公園の「赤い靴の少女像」。

ます。長世が作曲の折り、「思ひ出す」では「ひ」の音が最高音になつて歌いにくいため、「かんがへる」に変えたのでしょう。

子供の頃「思ひ出す」と歌つたという高齢の方がおられます。それは、小松耕輔編『世界音楽全集 第十一卷 日本童謡曲集』(春秋社、昭和五年発行)の歌詞が「思ひ出す」になつていて、「婦人俱楽部」附録「童謡・唱歌・流行歌全集」(昭和十一年発行)や、その他出版物が歌詞集を出す時、これにならつたためと思われます。

「赤い靴」の少女のモデルきみちゃんが実在したという説には賛否両論があります。

に「ネリー」など四体が展示されています。



「青い目の人形」岡本帰一の挿絵 「金の船」(キンノツノ社)  
大正10年12月号。大正13年、雨情の童謡集「青い眼の人形」  
(金の星社)に収録の時タイトルを「青い眼の人形」とした。

## 青い眼の人形

横浜市

野口雨情・作詞 本居長世・作曲

青い眼をした お人形は

アメリカ生れの セルロイド

「赤い靴」と同じ野口雨情・本居長世コンビの傑作で、「赤い鳥」と並ぶ童謡誌『金の船』大正十年(1921)十二月号に詩と楽譜が同時に発表されました。詩は雨情が実際に青い眼の人形を見て書いたと思われていますが、雨情自身は「セルロイド製のキューピーさんを見て、キューピーから思ひついたのは、この青い眼の人形である」

と書いています。曲は、歯切れの良いアップテンポのホ長調で始まり、途中で少し遅い愁いをおびたホ短調に転調され、最後にまた明るいホ長調に戻ります。長世は、長調の間に短調の部分をはさむという作曲形式が得意でした。日本人は、このような変化の曲が大好きです。また、「仲よく遊んで やつとくれ」を二回繰り返して作曲しました。

昭和二年(1927)、雛祭にあわせてアメリカから日米関係悪化を改善しようと一万二千七百三十九体の青い眼の人形が送られてきました。当時の歌がはやっている事を知った宣教師が思いついたものです。横浜人形の家

## かもめの水兵さん 横浜市

武内俊子・作詞 河村光陽・作曲

かもめの水兵さん ならんだ水兵さん

白い帽子 白いシャツ 白い服

です。光陽は「海の青とカモメの白、色彩の上からはつきりしている感じを曲の上に表現するため、音楽の基本的三和音ドミソから歌いだす簡潔な曲作りを意図した」と述べています。

昭和八年(1933)九月二十四日、作詞の武内俊子はハワイに旅立つ叔父を見送りに横浜港に行き、桟橋一帯にたくさんの白いカモメが飛び交つているのを目りました。印象的な光景を詩にして、「赤い帽子白い帽子」などでコンビの作曲家、河村光陽に電話で伝えました。光陽はそのままピアノのキーをたたき、即座に曲ができたそう

です。光陽は「海の青とカモメの白、色彩の娘で十一歳の河村順子の歌でキングレコードから発売されると、大ヒットとなりました。戦前・戦中の童謡レコードの売上ベストワンとなりました。昭和十二年(1937)七月、日中戦争が始まりました。レコードに付属された童謡振付には水兵が銃剣を構えて水平に突き出す動作が付けられていました。

しかし、子供のことばを生かした歌詞と明るいメロディーは世界中の子供たちに大人気となり、十一カ国語以上に訳されて愛唱されています。

カモメは神奈川の県の鳥です。



湘南海岸（辻堂海水浴場）。向こうに江の島が見える。

## 鎌倉

鎌倉市

芳賀矢一・作詞 作曲不詳

七里ヶ浜のいそ伝い、稻村ヶ崎、

名将の剣投ぜし古戦場

詩は明治三十七年（一九〇四）『尋常小学読本』巻十二、第六課の韻文として発表されたもので、作詞者は、親

族や知人などの証言により東京帝国大学教授で『読本』編纂者だった芳賀矢一といわれています。これに曲をつけて明治四十三年（一九一〇）『尋常小学読本唱歌』で発表されました。いわゆる「文部省唱歌」です。作曲者は、岡野貞一だろう、といわれていますが、決定的な証拠はありません。宗教的で格調高くできています。

七里ヶ浜から鎌倉の中心部、さらに北鎌倉へ抜ける道順に歴史と名勝旧跡を歌い込んであるので、歌えば歴史の勉強になり、土地のガイドもしてくれます。もともと小学校六年生に暗誦の訓練をさせる目的で曲が付けられたそうです。

## 浜辺の歌

湘南海岸

林古溪・作詞 成田為三・作曲

あした浜辺をよまよえば、  
昔のことぞしのばる。

歌の浜辺は、林古溪が幼いころ藤沢に住んでいたことから辻堂あたりの湘

南海岸を歌つたものとされています。大正二年（一九一三）、詩は東京音楽学校学友会誌『音楽』第四卷第八号に「はまべ」のタイトルで掲載されました。ただし四番まであった原作の三番前半「はやち たちまち なみをふき、赤裳の すそぞ ぬれもひぢし。」に四番後半「やみし われはすでに いえて、はまべの眞砂<sup>マナゴ</sup> まなご いまは。」をつけた改作が載せられました。

味がとおらん」と言って三番が歌われることを好まなかつたそうです。亡くなる直前、教科書に掲載された時も三番を削除し、著作権協会にも全二節の詩として登録しました。

掲載詩「はまべ」の最後に（作曲試作）とあり、成田為三、朝永研一郎ほか何人かが作曲したようです。作曲時期は大正四、五年頃とされています。大正七年（一九一八）十月一日、セノオ音楽出版社から成田為三の曲が竹久夢二の装画で「獨唱 浜邊の歌」セノオ楽譜九八番のピース（単発楽譜）として出版されました。曲はロマンチックなメロディーと高度な和音でできています。



歌詞の2番に出てくる  
露座の大仏。

## 真白き富士の根 鎌倉市

三角錫子・作詞 インガルス・作曲

真白き富士の根 緑の江の島

仰ぎ見るも 今は涙

明治四十三年（一九一〇）一月

二十三日、悲劇が起きました。逗子開成中学校（旧制）の生徒十一人と逗子小学生一人の計十二人が乗ったボートが、七里ヶ浜の沖で突風にあつて転覆・沈没、全員が死亡したのです。

事故から一週間後の二月六日、開成中学校の校庭で行われた追悼大法要で、鎌倉女学校の生徒が三角錫子先生のオ

ルガン伴奏でこの曲を歌い、参列者の涙を誘いました。開成中学校と鎌倉女学校は創立者が同じで姉妹校の関係になりました。数学教師、三角錫子は開成中学校の近くに住み、遭難した生徒とは顔見知りでした。法要の日が決まるとき、一晩で詩を書いたと言われています。

作曲者はインガルス（一七六四～一八二八年）で、彼の編集した讃美歌集にある「WHEN WE ARRIVED AT HOME」が原曲。この曲は日本では大和田建樹作詞の「夢の外」という曲名で『明治唱歌（五）』（明治二十三年・中央堂）に発表されていましたので女学校でよく歌わっていました。



荻窪の親水公園に建つ「めだかの学校」。左は、歌碑。茶木滋の生まれた横須賀と作曲者の中田喜直が在住した横浜にも歌碑がある。

鎌倉女学校の生徒が三角先生の書いた歌詞ですぐ歌えたのは愛唱歌の替え歌だったからです。

## めだかの学校 小田原市

茶木滋・作詞 中田喜直・作曲

めだかの学校は 川のなか

そつとのぞいて 見てごらん

小田原市は平成六年（一九九四）から二年間かけて荻窪の親水公園を造成し、平成八年に「めだかの学校」を開校しました。散策路内に四基の詩碑があります。一基目に「昭和二十五年 童

焼失しました。

NHKから委嘱された茶木は、昭和二十一年（一九四六）頃のある日、子供づれで、小田原市郊外（荻窪村）へイモを買出しに行つた時のこと思い出しその田園風景をモチーフにしました。作曲は中田喜直が担当、「そつとのぞいてみてごらん」を二回繰り返し完成させました。

昭和二十六年（一九五一）四月九日、NHKラジオ第一放送の「幼児の時間」で稻葉政江の歌で初放送され、翌二十七年「かわいいかくれんぼ」「めだかの学校」のレコード（歌は安西愛子と杉の子こども会）は第三回芸能選奨音楽部門の文部大臣賞を受賞しました。

詩作家の茶木滋さんがこの荻窪用水周辺を舞台に作詞されました」と刻まれています。

詩の誕生物語は、三歳になる茶木の息子の義夫君が川でめだかを発見。父を呼んだが、めだかは逃げてしまつた。しかし、義夫君は「またくるよ。まつてようよ。ここ、めだかのがつこうだもの」と言つたのですが、これは童謡作家・佐藤義美が著書『どうようものがたり』で創作したものです。茶木一家は昭和十九年（一九四四）に神奈川県小田原市万年町（現在の浜町）に疎開し、その後、箱根町宮城野に移りました。移つて約一週間後、終戦の日の未明に万年町の家は、空襲で

## 赤い鳥小鳥 小田原市

北原白秋・作詞 成田為三・作曲

赤い鳥、小鳥、なぜなぜ赤い。  
赤い実をたべた。

大正の童謡運動の中心になつた雑誌『赤い鳥』を代表する童謡「赤い鳥小鳥」は大正七年（一九一八）十月号に発表されました。北海道河西方面で歌われていた童謡「ねんねの寝たまに」を元にして作られました。北原白秋は、「赤い鳥小鳥」は私の童謡の本源である、と述べています。成田為三が作曲した曲は、『赤い鳥』大正九年四月号



伝肇寺と境内にある「赤い鳥小鳥」の歌碑。白秋は大正7年から大正15年までの8年間を小田原で暮らした。

に発表されました。詩も曲も単純明快で優れています。

小田原での白秋は、伝肇寺境内（通称・天神山。現・小田原市城山）に初めて自分の家を建てました。家の正面が木兎の貌に似ていることから、「木兎の家」と呼んでいました。のちに隣接して三階建ての洋館「白秋山荘」を建て、「あわて床屋」「搖籃のうた」などの童謡を発表し、創作活動に励みました。

白秋の家は、大正十二年（一九二三）九月一日の関東大震災で崩壊、白秋一家は大正十五年五月に東京の谷中へ引っ越しして以後、小田原へは帰りませんでした。

焼けの色を映して、なつかしく浮かびあがり、猿やかごがひらめいたのでした。同時に想い出されたのが、祖父の代からの骨董店の片隅に置いてあつた小田原提灯だったそうです。

出来上がった詩はすぐに海沼に送られ、九月中に作曲されました。

昭和十四年（一九三九）十二月にビクターからA面「動物の大行進」のB面として発売されました。しばらくすると「お猿のかごや」の名指しで全国のレコード店から注文が殺到し、在庫が一枚もなくなるという大ヒットになりました。昭和十五年には改めてA面曲として再発売され、小田原提灯も全国に知られるようになりました。

歌詞に「小田原提灯」が出て来るごとに有名なのが「お猿のかごや」（山上武夫作詞、海沼實作曲）です。

しかし、山上と海沼は長野市松代町の生まれです。昭和十三年（一九三八）九月、東京・大森の姉の嫁ぎ先で居候生活をしていた山上は、故郷の山なみを想い出していました。その時、幼いころから親しんだ山道が、目の前の夕



JR小田原駅構内の巨大な小田原提灯。

# 二宮金次郎 小田原市

作詞・作曲不詳

柴刈り縄ない草鞋をつくり  
親の手を助け弟を世話し



「キンタロー」「教科適用 幼年唱歌」初編上巻(明治33年)。歌詞は小学1年生用にカタカナで書かれている。



足柄大橋の金太郎像。

明治三十三年(一九〇〇)、「教科適用 幼年唱歌」初編上巻で発表されました。作詞者は石原和三郎、作曲者は田村虎藏です。歌詞のページの上段に、

まさか里を担ぎ、熊にまたがった金太郎が、動物たちと遊ぶ挿絵が入っています。そのため、これまでの文字だけの唱歌教科書と違い、子供たちに親しまれました。

文語体で難しい小学唱歌を批判し、「子供の言葉を使つた、子供の生活感情に合つた唱歌を与えよう」という田村虎藏らの言文一致唱歌運動の成果が、「キンタロー」だったのです。

明治四十四年(一九一二)、二年生用の『尋常小学唱歌(二二)』(文部省)に発表されました。作詞・作曲者は、金次郎といえば、早起き・柴刈り・ワラジ作り、歩きながらの読書というイメージが一般的です。

戦前には修身の象徴として取りあげられ、全国の学校で柴を背負って本を読む二宮金次郎の像が建てられました。金次郎といえば、早起き・柴刈り・ワラジ作り、歩きながらの読書というイメージが一般的です。

明治四十四年(一九一二)、二年生用の『尋常小学唱歌(二二)』(文部省)に発表されました。作詞・作曲者は、



二宮金次郎(後年の尊徳)生家と尊徳像(小田原柄山の尊徳記念館)。記念館には尊徳の生涯と事業についての資料や遺品が展示されている。

わかつていません。

戦後は修身教育への批判から銅像も少なくなりましたが、二宮尊徳の偉さは青年時代以降にあつたというべきです。統計資料の重要性に気づき、経済を見通す方法を村人に教えた実践的な経済学者・教育学者だったのです。その活躍は福島県にも及びました。

## キンタロー

南足柄市

石原和三郎・作詞 田村虎藏・作曲

マサカリカツイデ、キンタローー、  
クマニマタガリ、オウマノケイコ、

金太郎伝説の舞台は箱根外輪山の中で、ひときわ高くそびえる金時山。足柄平野から山頂にかけて数多くの逸話が残されています。

## 箱根八里

箱根町

鳥居枕・作詞 滝廉太郎・作曲

箱根の山は 天下の険  
函谷関も物ならず

箱根八里とは旧東海道の小田原宿から三島宿(現在の静岡県)までの八里的山坂をいいます。その中間に箱根本関所があります。詩は「第一章 昔の

箱根」「第二章 今の箱根」と題され、江戸時代の往時の武士と明治時代の近時の壯士が歌われています。

明治三十三年（一九〇〇）、東京音楽学校教授で音楽通論と国語を教えていた鳥居応が自作のこの詩を見せ、「曲を付けるものはいなか」と聞いたとき、瀧廉太郎ひとりが手をあげたといいます。瀧は当時二十一歳。難しい詩に明るく力強い曲が付いた時、鳥居は



JR御殿場線の山北・谷峨間を走る列車。鉄橋の橋脚に複線だった時代の面影が残っている。昭和43年に全線電化するまではD52型蒸気機関車が活躍した。



箱根旧街道に残る江戸時代の石置。

じめ全員が声も出ないほど驚いたといいます。東京音楽学校では明治三十四年出版の『中学唱歌』のために三十二年ごろから委嘱により集められた詩を公表して曲を懸賞募集していました。瀧は「箱根八里」「豊太閤」「荒城月」を応募し、三曲とも入選しました。瀧は二十三歳十ヶ月で早世しました。

## 汽車ばつば 御殿場線

本居長世・作詞作曲

お山の中ゆく 汽車ばつば  
ばつば ばつば 黒い煙を出し

に一致しています。

一方、「兵隊さんの汽車」は、昭和十二年（一九三七）七月七日に勃発した日中戦争のため、御殿場駅のホームから兵士が戦地に送り出されるようになり、その風景を見て、八月に御殿場市高根小学校の先生をしていた富原薰が作詞したものです。レコードはその年の十月、ポリドールから「軍艦旗」（林柳波作詞、草川信作曲）のB面として発売されました（歌は斎藤達雄と大久保澄子）。前奏には、シユーベルトの「軍隊行進曲」の一部がアレンジされています。文字通り戦意昂揚の歌でした。

「汽車ばつば」に変わったのは、昭

和二十年の大晦日のラジオ番組「紅白音楽試合」に、川田正子が登場することになったからです。正子は二年前の七月、八歳の時、「児童唱歌コンクール」でこの曲を歌い二位になっていました。占領下、「兵隊」では歌えません。富原は急遽書き直し放送に間にあわせました。それは「明るい希望が待っている」歌に変わった瞬間でした。

なお、文部省唱歌「汽車」（明治四十五年『尋常小学唱歌』第三学年用。今は山中、今は濱（）の風景については諸説がありますが、「浜」は湘南海岸、「鉄橋」と「トンネル」は谷峨付近、「廣野原」とは自衛隊基地のある富士高原を指すというのが地元の通説です。

國府津から御殿場を経て、沼津に至る御殿場線を走る蒸気機関車は、本居長世作詞作曲の「汽車ばつば」（昭和二年五月作。お山の中行く）と、富原薰作詞、草川信作曲の「汽車ばつば」（元は「兵隊さんの汽車」昭和十二年八月作詞。汽車汽車ばつば ばつば）を生みました。

本居長世の三女、若葉さんによれば、毎年夏に沼津の叔父、本間義素の家に避暑に行つた時の御殿場線（当時は東海道本線）の様子を歌つたものです。昭和二年（一九二七）七月二日にラジオで初放送（歌は若葉、伴奏は長世）され、「なんだ坂こんな坂」という言葉がはやりました。詩と曲が見事

## 花嫁人形 山北町

落谷虹児・作詩 杉山はせを・作曲

きんらんどんすの 帯しめながら  
花嫁御寮は なぜ泣くのだろ



「花嫁人形」 薩谷虹児作 「少女の友」 昭和26年4月  
号挿絵。虹児自身の詩の世界が、赤、黒、白の色彩  
で簡潔に具象化されている。(図版提供／山北町「蒼  
の山荘・ギャラリー 薩谷虹児」)

「花嫁人形」の作詩者で挿絵画家の落谷虹児は、昭和十九年（一九四四）、東京から山北町に疎開しました。趣味の鮎釣りが縁で知り合った山北郵便局长・鈴木隆造（後の山北町町長）の世話をでした。当初一家は山北町堂山の種徳寺に間借りしていましたが、やがて寺の下に三保村から小さな家を移築しました。家の前には御殿場線が走っていました。山北音頭の作詞も手がけました。

「花嫁人形」の詩は雑誌『令女界』大正十三年（一九二四）二月号に発表されたもの。絵の勉強にパリに発とうと

していた虹児のもとに楽譜出版社の社長が来て、「詩に杉山はせを君が作曲したから、その楽譜の表紙絵を描いてくれ」と言つたそうです。寝耳に水だった虹児は怒つて喧嘩になりましたが、楽譜は虹児がパリにいる間の昭和三年に出版されてしまい大流行。以後、「花嫁人形の落谷虹児です」と挨拶したこともあつたそうです。

## 夕焼小焼 厚木市

中村雨紅・作詞 草川信・作曲

夕焼小焼で 日が暮れて  
山のお寺の 鐘がなる

厚木市では夕方のチャイムに使われています。

池田小百合 ● 1951年、神奈川県生まれ。国立音楽大学卒。童謡研究家。童謡の会を主宰。著書に「子どもたちに伝えたい日本の童謡」(実業之日本社)、「読む、歌う 童謡・唱歌の歌詞」(夢工房)、CD解説「ほんのうた」(AVEX)など。

作詞者の中村雨紅は東京八王子の生まれですが、昭和元年（一九二六）十二月に県立厚木実科高等女学校（現・県立厚木東高校）の国語の教師になり退職までの二十三年間、ここで教えました。ピアノ購入者に進呈する新作童謡本を作りたいという依頼を受けた音楽教育者・福井直秋が作詞者の一人として雨紅を選び、雨紅は作りおいてあつた「ほうほう螢」と「夕焼小焼」の二篇を渡したといいます。「ほうほう螢」は田中敬一、「夕焼小焼」は草川信が作曲し、他の作品もあわせて五曲が、大正十二年（一九二三）七月、文化楽社から文化楽譜『あたらしい童謡』として発行されました。

十分に出回らないうちに楽譜は九月の関東大震災にあり、そのほとんどが失われました。しかし、残った十三部ばかりの楽譜が元になつて震災後的小学校から歌い拡げられました。数カ月後には大勢の人々がこの歌を愛唱していました。「夕焼小焼」に被災者は追悼の気持ちを感じたのではないでしょうか。

厚木市では夕方のチャイムに使われています。

ました。路線に面した家の白い壁に「虹f」のサインを大きく記し、屋根はおとぎの家のように赤くしました。東京からやって来る編集者たちへの目印です。戦後もここに留まり、昭和二十九年まで町に溶け込んで暮らしました。町の教育委員を務めたり、文化を語る会に出たりと地元への義理も怠りませんでした。県立山北高校の校歌の作詞や校章のデザインを考案、山北中学校と吉田島農林高校（現在の吉田島総合高校）の校章も作りました。山北音頭の作詞も手がけました。

「花嫁人形」の詩は雑誌『令女界』大正十三年（一九二四）二月号に発表されたもの。絵の勉強にパリに発とうと

## ロビーコンサート（ランチタイムコンサート）

●会場 横浜銀行本店ビル2階本店営業部ロビー  
●時間 12時15分～12時45分（30分）

開催日	内容	出演者	曲目
9/12（月）	クラリネットデュオ（フタバ）	池上美香（クラリネット） 薗田可奈子（クラリネット）	ケックラン「イディユ」（田園風） ハチャトリアン「剣の舞」 その他

※各コンサートとも、曲目については、変更もありますので、ご了承ください。

●お問い合わせ 財団法人はまぎん産業文化振興財団事務局  
(横浜銀行本店ビル13階内 電話045-225-2171 平日9時～17時)

●交通アクセス JR線・横浜市営地下鉄線 桜木町駅下車、  
動く歩道利用徒歩5分、みなとみらい線みなとみらい駅下車7分

●協賛 横浜銀行 ●協力 オフィスKOM

\*電力供給不足に伴う計画停電の実施および交通事情により、やむを得ず公演を中止する場合があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

## 編集後記

幼い時から、口ずさみ、慣れ親しんできた童謡・唱歌は、いつの時代においても、老若男女を問わず、私たちに郷愁や安らぎの時を与えてくれます。今回の「マイウェイ」は、郷土かながわに因んで誕生した代表的な童謡・唱歌十六曲をテーマに、歌が誕生した背景や意義、作詞・作曲家の思い、歌詞の変遷などをご紹介いたしました。ここに掲載された童謡・唱歌は、歌詞とメロディーが自然に口に出るような皆さま方が良くご存じの歌ばかりです。なかでも関東大震災後、わずかに残った楽譜とともに、広く歌い抜けられた「夕焼小焼」は、何よりも、多くの人の共感を呼ぶ歌の持つ力強さを物語っているのではないでしょうか。

「マイウェイ」を通じて、郷土の童謡・唱歌を地域の方々に広くご紹介することことができれば誠に幸いです。最後になりましたが、執筆・監修をおいたいた池田小百合氏はじめ、取材にご協力いただいた皆さま方に、厚く御礼を申し上げます。

●次号予告 つづりーー1年9月刊行  
続かながわネーチャーライブ物語

財団法人はまぎん産業文化振興財団  
事務局参与 清水照雄

## インフォメーション

## はまぎん財団ふれあいコンサート2011のご案内

8月から10月までの各月に開催するコンサート（無料）について、次の通り、ご案内いたします。どうぞ、お気軽にお越しください。なお、11月から2月（除く1月）までのコンサートの詳細は、別途ホームページ、インフォメーション等でお知らせいたします。

## 《予約制》

## ラウンジコンサート（アフタヌーンコンサート）

●会場 横浜銀行本店ビル1階ラウンジ「ルポール」

●募集人員 60名

●時間 15時00分～16時00分（1時間）

●募集期間 受付中（期限：平成23年7月20日〔水〕）（当日消印有効）

開催日	内容	出演者	曲目
8/22（月）	弦楽アンサンブル	オブリオンカルテット 木村恭子（ヴァイオリン） 深谷まり（ヴァイオリン） 木村恵子（ヴィオラ） 間瀬利雄（チェロ）	ハイドン『皇帝』 シューベルト『ロザムンデより第2楽章』 その他

## 《予約制》

## ヴィアマーレコンサート（アフタヌーンコンサート）

●会場 横浜銀行本店ビル1階「はまぎんホール ヴィアマーレ」

●募集人員 300名

●時間 14時00分～15時30分（1時間30分）

●募集期間 平成23年8月1日（月）～9月9日（金）（当日消印有効）

開催日	内容	出演者	曲目
10/11（火）	サクソфонの魅力～クラシック&ジャズ～	物井光太朗（サクソфон） 田辺陽子（サクソfon） 甲田倫香（サクソfon） 石岡公恵（サクソfon） 吉村隆行（ピアノ） 後藤貴徳（ギター）	チャイコフスキー「花のワルツ」 (サクソfon四重奏) コズマ「枯葉」 ストレイホーン「A列車で行こう」 その他

## ●予約制のコンサートの申込方法は次のとおりです。

往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 「はまぎん財団ふれあいコンサート係」まで、お申し込みください（はがき1枚で2名までお申し込み可）。申込多数の場合には、抽選となりますので、あらかじめご了承ください。

\*はがきに記載された個人情報は、本催事のお申し込みのみに使用し、厳正にお取り扱いします。